

水曜通信12

東北学院宗教センター編

2021年
11月

LIFE

LIGHT

LOVE



「地面に字を書くイエス」
(ヨハネによる福音書 8: 1-11)

「姦通の女」の一場面。
姦通の罪を犯した女を律法学者やファリサイ派の人々が攻め立てる中、地面にかがみ込み、字を書いているイエス。

第6回
泉キャンパス礼拝堂
ステンドグラス紹介

「せんくら頌」

「せんくら」すなわち「仙台クラシックフェスティバル」は、今年の10月初めに2年ぶりに開催されました。ぼくはベートーベンとバッハを聴きに行きました。

「せんくら」は、とてもよく工夫された企画です。演奏会は、45分か1時間で通常の半分以下の時間に設定され、演奏者は優秀な若手を中心です。さらにチケットは1300円、1800円という、手ごろな価格で気楽に楽しめます。実際、仙台の市民が若い演奏家を支えて、温かく応援しています。

音楽は言葉ではなく感情です。「音楽についての批評は、感動の前では全て崩壊する」と、日本の音楽批評を確立した



吉田秀和は書いています。つまり感動の前で言葉は意味を失うのです。その感動は人を柔和にします。学院のキャンパス全体がいつもそういう柔和と善意 (bonae voluntatis) に満ちた場所であるように。

(理事長特別補佐〈宗教センター担当〉鐸木 道剛)

次回：第47回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝)
11月8日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教：木村 純二 (本学文学部教授)

奏楽：今井 奈緒子 (大学教養学部教授)

【第2部 音楽による賛美】

演奏：今井 奈緒子

独唱：高橋 絵里 (ソプラノ)



第46回 水曜公開礼拝報告（説教：田島 卓、奏楽：菅原 淑子）

2021年10月25日（月） 公開オンライン礼拝

讃美歌：285番「主よ、み手もて」
聖書：エレミヤ書 8章 8-13節
讃美歌：391番「ナルドの壺」
説教：「神への問い」
頌栄：544番「あまつみたみも」



【説教要旨】

合理化されたはずの近代においては「自分だけの神」に頼ろうとする傾向がありえます。過当競争と自己責任の論理は、社会から弾かれた個人を生み出し、弾かれた個人は、自分を甘く受け止めてくれ、現実の不確かさを一刀両断する確実さを与え、社会への復讐を後押しするような、いわば「自分だけの神」を発見してしまうのです。「自分だけの神」を所有する快感は、自分たちだけが真実に目覚めた者であるという独善性へと繋がり、他者を裁く暴力へと落ち込んでしまいます。神の名を暴力の贖宥状としないために、私たちは、「神について」語るのではなく、「神と」語り、神に問いかけ、神に祈る必要があります。エレミヤの祈りの姿において、私たちは神と出会う場所を探し求めなければなりません。
(文学部 田島 卓)

前奏：J.S.バッハ作曲 コラール前奏曲「いと高きところには神にのみ栄光あれ」BWV662

この曲は「ライプツィヒ・コラール集」の第12曲目で、原曲は古来のグローリア旋律に基づいており、N.デーツイウスが歌詞をドイツ語に訳し、1593年にライプツィヒで出版された「宗教歌曲集」に収録されました。3声の対位法の序奏の後に、雄麗な装飾をまとったコラールが現れます。

後奏：J.S.バッハ作曲 コラール前奏曲「最愛のイエスよ われらここに集いて」BWV731

バッハは様々なコラールをオルガン独奏用に編曲しました。《27のコラール》の第18番目にあたるこの曲は、優しい響きの旋律が、装飾とともに甘美に歌われます。

(本学礼拝オルガニスト 菅原 淑子)



礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：菅原 淑子）

1. J.A.ラインケン作曲 フーガト短調

99歳の高齢に至るまで、ハンブルク聖カタリーナ現役教会オルガニストとして活躍しました。即興の名手としても名声を博し、97歳の彼の前で、バッハが即興演奏を披露したことは有名です。この曲は、バッハにも影響を与えた北ドイツ風対位法作品です。

2. マックス・レーガー作曲 序奏とパッサカリア ニ短調

レーガーは、オルガン曲の数の多さからも、ドイツのオルガン後期ロマン派の最も重要な作曲家と言えます。レーガーが、オルガンを「演奏会用の第一級の楽器」と呼んだことも有名です。

彼自身はカトリック信徒でしたが、バッハの影響もあってコラールに基づく作品も多く残しています。

「序奏とパッサカリアニ短調」は小規模ながらもレーガーの魅力が伝えられる、人気の高い作品です。
(菅原 淑子)



東北学院の草創期 (11) 「最初の学生」

— ② 安部 保次郎 —

安部の原籍地は押川と同じ伊予松山ですが、どのような事情で仙台に来たのかは不明です。仙台教会の会員名簿には、押川から1886年10月に洗礼を受けて「仙台神学校内に居住」とあることから、受洗後まもなく献身して神学校には多少遅れて入学したものと思われる。しかし彼も「忍耐強く勉学を続けられなくなり、早く実際活動に入りたかった」(ホイイの手紙)のか、1890年の12月には神学校を退学して三重県の鳥羽で伝道活動を開始します。

鳥羽での伝道開始からわずか1年後の1891年、当時日本の未熟なキリスト教世界に入り込み始めていた「宇宙神教」の機関紙『自由基督教』には、安部は「信仰の変動よりして過般宇宙神教々会に加入」と報じられています。宇宙神教は、神の愛を強調し、最後の審判では異教徒や悪魔をさへ含めて、すべての靈魂が救われると説く「万人救済」の立場を取るもので、伝統的な正当信仰とはかけ離れたものでした。同教団の要職に挙げられて大阪で華々しい活動を展開した安部は、1895年に東京の赤坂溜池教会の担当牧師に転じたのを最後に、その年の暮れには辞任し、その後の消息は不詳のままです。

当時日本のプロテスタント教界を二分した「新神学」の影響を、最初期の仙台神学校もその出身者も受けてしまったと言えます。

(東北学院史資料センター 日野 哲)



宇宙神教の教職者たち(安部は前列左端)

— 建築が語る東北学院の歴史 (6) —

建築家 Jay H.モーガンが設計した土樋キャンパスの建築(本館、礼拝堂、正門)には、チューダー・アーチと呼ばれる造形が内外に繰り返し用いられています(fig.1-4)。もとは15世紀末から17世紀初頭にかけてのイギリス(チューダー朝)に興った造形で、中世のゴシックや城郭建築の様式にルネサンスの影響が加わって生まれたものと考えられています。

Jay H.モーガンが建築を習得した米国では、19世紀末以降、大学建築を中心にカレッジ・ゴシックと呼ばれる様式が流行しました。19世紀初頭以来のゴシック・リバイバルの延長線上に、コロンビア大学のハミルトン・ホールが重要な契機となって、チューダー・ゴシックを参照源とする建築が広く流行するに至ったと言われています。そうしてモーガンは、当時流行の米国大学建築の新様式を仙台に持ち込みます。イギリスからアメリカを経て仙台へ。これらは、時空を超えて届けられた造形と言えます。

(工学部 崎山 俊雄)



fig.1 : 礼拝堂内部



fig.2 : 礼拝堂外観



fig.3 : 本館正面



fig.4 : 正門

ゲルハート記念室とパウル・ゲルハート（2）



2019年刊行豪華本



2006年発売CD

パウル・ゲルハート(Paul Gerhardt 1607-76)はマルチン・ルター以降、ドイツ・プロテスタント最大の賛美歌作詞家です。特に2007年は生誕400年記念の年ということで、それ以降も、たくさんの書物が出版されました。2013年にはレクラム文庫にも入りました。パウル・ゲルハートの詩は、日本の讃美歌でも10曲、讃美歌第二編で3曲入っています。

中でも最も有名な賛美歌は、受難のイエス・キリストを歌った讃美歌136番の「血潮（ちしお）したたる主の御かしら（O Haupt voll Blut und Wunden）」です。この歌詞はクレルヴォーのベルナルド（1090-1153）作と伝えられていたラテン語詩の翻訳を下にパウル・ゲルハートが作詞したもので、ハンス・レオ・ハスラー（Hans Leo Haßler 1564-1612）作曲の世俗曲「私の気持ちは千々に乱れ（Mein Gemüt ist mir verwirret）」のメロディーで歌われ、パウル・ゲルハート作詞の最も有名な賛美歌となりました。バッハも『マタイ受難曲』と『クリスマス・オラトリオ』の中で、重要な受難のモチーフとして使っています。

（理事長特別補佐〈宗教センター担当〉鐸木 道剛）



生誕350年記念切手



没後400年記念切手



2013年刊行
レクラム文庫

美術による賛美(9)



イサク・ディーネセン
1958年作 ちくま文庫

神さま、あるいは天国を再現する芸術は美術や音楽だけではありません。

『ヨハネ第1の手紙』に言います。「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手でさわったもの、すなわちいのちの言について」（第1章1-2節）。

ここでは聴覚（音楽）、視覚（絵画）、触覚（彫刻）が挙げられていますが、神さまは受肉して、すべての感覚の対象になったのです。ですから、味覚（料理）、嗅覚（香水）も芸術です。つまり料理や香水によっても、おぼろにも天国の体験ができるのです（『コリントの信徒への手紙1』13章12節）。それは天国の先取りです。料理芸術については『パベットの晩餐会』（左）、香水については『パフューム』（右）があります。いずれも名作小説です。映画化もされています。（鐸木 道剛）



パトリック・ジュースキント
1985年作 文春文庫



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第12号

2021年11月2日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 野村 信

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp